

2024年度

川崎市視覚障害者情報文化センター
指定管理事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

目次

ページ番号

1. 総括	-----	1
2. 事業の成果	-----	2
① 点字図書館事業	-----	2
(ア) 利用者数と図書の貸出・提供	-----	2
(イ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声解説の製作	-----	4
(ウ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声解説製作ボランティアの養成	-----	5
② 相談・訓練事業	-----	8
(ア) 相談・訓練実績	-----	8
(イ) 「働く人たちの座談会」の開催	-----	9
(ウ) 「ヘルスキーパー座談会」の開催	-----	10
(エ) 訓練生屋外交流会の開催	-----	10
(オ) 出張エクササイズ	-----	11
(カ) 「安全で探しモノの無いくらしを目指そう！整理収納のきほん」講座	-----	11
③ 視覚障害者用具の展示と斡旋	-----	12
④ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及	-----	12
(ア) 各種支援センター・各種相談所などの関係機関との連携	-----	12
(イ) 啓発・普及	-----	15
(ウ) その他	-----	16
⑤ 広報活動・イベントの開催	-----	18
(ア) 広報活動	-----	18
(イ) イベントの開催	-----	19
⑥ 防災・減災	-----	24
(ア) 避難訓練の実施	-----	24
(イ) 緊急連絡網の整備	-----	24
(ウ) 感染症予防対策について	-----	24
(エ) AED 機器	-----	25
3. 利用状況	-----	25
(1) 閲覧・貸出	-----	25
(2) 資料製作	-----	26
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成	-----	27
(4) 相談・訓練事業の取り組み	-----	27
(5) 啓発・普及	-----	28
(6) イベントの開催	-----	29

1. 総括

2024 年度の総括に加え、後半では今後の事業につながるトピックスを報告いたします。

まず、図書サービス事業では、利用登録者数、図書の貸出数、ダウンロードサービス数などは、それぞれ前年度より減少しましたが、通常の読書会に新たな楽しみを加えた「小説を楽しむ会」の開催を増やすと同時に企画内容にも工夫を凝らし、読書の楽しみを共有する機会を作ることに力を入れました。図書製作では、今年度は点訳ボランティアの養成を行い、全 17 回の講座を半年にわたり開催し、受講生 5 名全員が最終審査に合格し点訳者としての活動をスタートしました。音訳分野では、DVD 映画の音声解説を製作するボランティアの養成に力を注ぎ、若年層のボランティアに積極的に関わってもらえたことは、今後の製作体制を整える意味で成果と言えます。

相談・訓練事業では、長期にわたる訓練よりも、短期間で行う相談のニーズが今年度も高く、傾向としては点字に関する相談や訓練が増えました。視力を補助する用具に関する相談も増え、用具販売を併設する強みを活かした支援ができています。また、医療機関をはじめ障害者相談支援センター、地域包括支援センター、役所の障害者支援担当向けに事業説明会をこれまで通り実施したり、医療機関・障害者関係機関の方々と毎月オンラインでの情報交換会を続けてきたことにより、各方面からの紹介で来所の方が順調に増えています。このような動きは、視覚障害に特化した地域資源のひとつとして、当センターが関連機関に認知されてきていることを示している結果と捉えています。

イベントへの参加者は、毎回ほぼ定員に達する状況となっており、当事者の皆さまの積極的な外出のきっかけになっています。これは、イベント終了後にアンケートを実施し、集計結果を次のイベントに細かく反映するようにしている結果と考えています。

ついで今年度のトピックスとして、川崎市市制 100 年を記念する図書（テキストデイジー図書）の製作を実施したことから、以下に報告いたします。

川崎市では 7 月 1 日に市制 100 年の節目を迎えたことに伴い、例年発行している市勢要覧の内容を拡充した「川崎市市制 100 周年記念誌 カワサキノコト」と、町名の保存と現在の町区域及び町名の由来を明らかにするために 1992 年に発行した「川崎の町名」の改訂版が発行されました。

センターでは、市の情報アクセシビリティへの試みの一助になるべく、年内完成を目標にテキストデイジーという形式で蔵書製作に着手しました。ちょうど同時期に、利用者から製作リクエストをいただいたので、大変良いタイミングとなりました。

「カワサキノコト」は写真が多く、構成が複雑な冊子のため、日本点字図書館に製作を依頼し、何度も打合せと修正を重ねながら完成させました。「川崎の町名」は、膨大な情報が収録された本でしたが、川崎市市民文化局市民文化振興室のご協力により画像データを提供していただき、それを活用しボランティアグループによる編集を経て年内の発表に漕ぎつけました。本来は手を加えない「読み」についても、できるだけ正確に読み上げられるよう工夫を施

しました。

完成後は、サピエ図書館経由で全国の視覚障害者にも利用されています。これらのテキストデージー図書は12月末に完成し、ぶっくがいど2月号で発表しました。2025年4月20日現在で、「川崎の町名」は41件(市内4・市外37)、「カワサキノコト」は17件(市内3・市外14)ダウンロードされており、地理分野の本としては全国ランキング5位、12位となっており関心を集めています。(2025年1月1日～2025年4月20日の期間で集計)

■市内公共図書館との懇談■

2023年度に神奈川県立図書館からの依頼で、公共図書館等の障害者サービス担当者向けに実施された研修会に講師を派遣したことがきっかけとなり、公共図書館との関わりを模索してきました。

2024年度も同研修会が実施され講師を派遣したことにより、このときに関わりを持つことができた川崎市内の公共図書館担当者や、個別にやりとりのあった公共図書館館長と情報交換を進めるなどして関係性を築いてきました。12月には、宮前図書館の館長が当センターにおこしくださり、次年度に向けた情報交換や協力体制に関して、具体的な相談をする時間を持つことができました。

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」通称読書バリアフリー法や、障害者差別解消法が施行され、障害に関わらず読書ができる環境と体制が整えられようとしている中、今後も公共図書館と情報交換や連携を継続するうえで、有効な関係性を築くことができました。

■年間追加目録「あたらしいほん」の作成■

2023年度に、センターに新しく入った資料を紹介するパンフレットを作成しました。

これは、センターを初めて知った方、当事者のご家族、ガイドヘルパー、ケアマネジャーなど、当事者を支える方に向けて、どんな図書(点字や音声資料)があるのかをわかりやすくまとめた年間追加目録です。利用できる資料の種類や、借り方などもわかりやすくお伝えしていますので、今後市内の公共図書館に置いていただくことも視野に入れています。潜在する利用者をセンターにつなげてもらうためのツールとして、すでに2024年度版を作成し配布できるよう準備をすすめています。

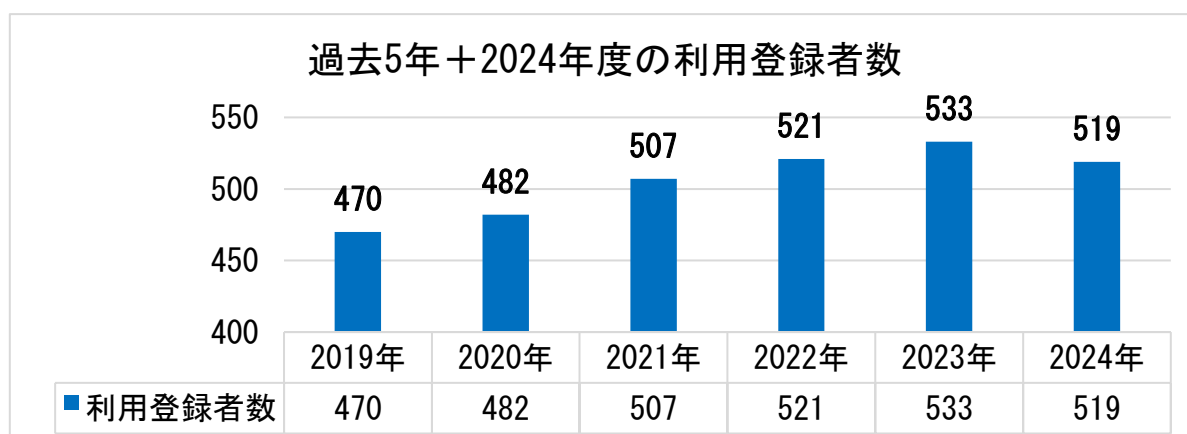
2. 事業の成果

① 点字図書館事業

(ア) 利用者数と図書の貸出・提供

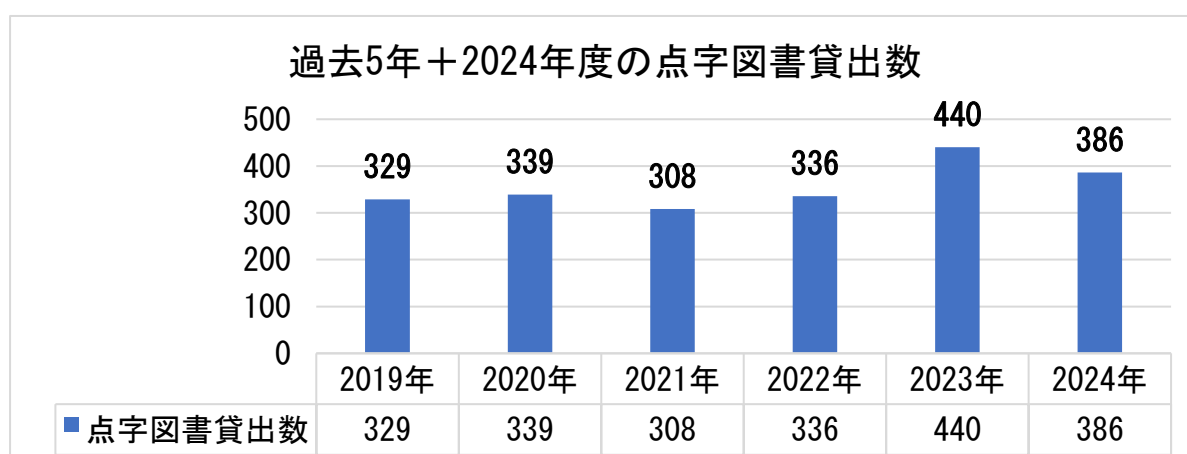
今年度の新規利用登録者数は22名でしたが、登録削除の数が上回り(36名)、最終的に利用登録者数は519名となりました。年度初めの4月に転出していたことが5月に明らかに

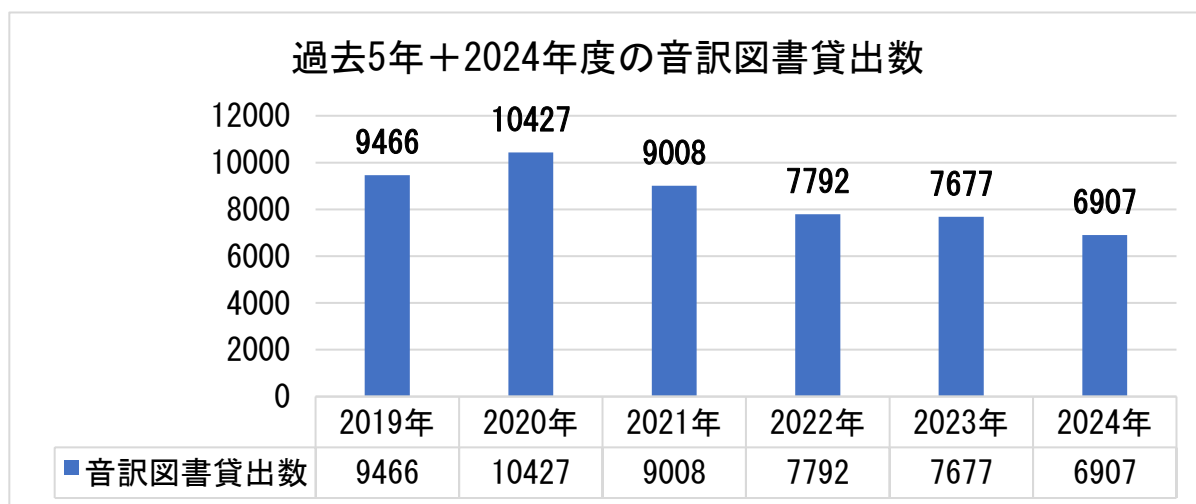
なるなどで8名が減り、冬に10名以上がご逝去となるなど、2度にわたり人数が減ったことが大きな要因でした。



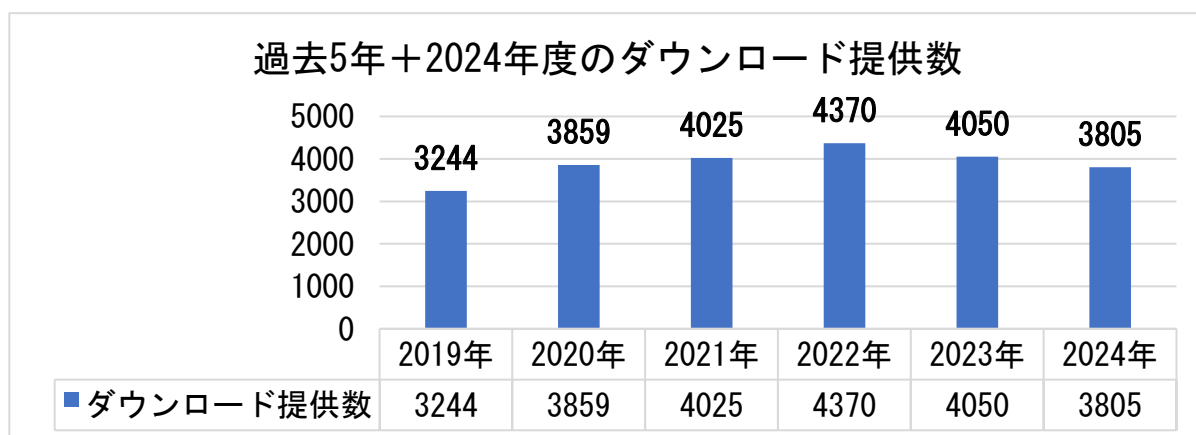
利用件数は点字図書が386タイトル（前年度440タイトル）、音訳図書が6907タイトル（前年度7677タイトル）と利用者減が響く形となりました。特に、音訳図書はコロナ禍だった2020年をピークに減衰しています。

利用者は高齢化に伴い、点訳・音訳図書ともに利用数が減る傾向があります。点字図書の読書速度が落ちるだけでなく、音訳図書でも再生速度を遅くして聞く方が増えている傾向にあります。加えて「よりおもしろい一冊」を求める傾向が強まるのもご高齢で読書を続ける方の特徴のひとつです。利用者の方々の読書意欲は失われていない一方で、なんでもよいからどんどん利用するというよりも、むしろハズレなく自分の好みに合うような図書を慎重に選びたい気持ちが強まる傾向にあると言えます。そのことがセンターへの図書相談にもつながっており、貸出担当は個別に受けるお好みの対応にきめ細かく対応しました。新規利用者の開拓が課題であると同時に、利用者ひとりひとりに寄り添った対応の重要性が増していることが、今年度の振り返りだと言えます。





ダウンロードによる利用は、245 タイトルの利用減となりました。頻繁にご利用いただいていた方がお一人でも利用がなくなると、年間 100 タイトル以上が減るなど、影響を大きく受けてしまいます。なお、このダウンロードサービス上の実利用者数は 43 名（前年度 48 名）で、今年度の一人当たりの平均提供数は 86 タイトルでした。



（イ）点字図書・音訳図書・DVD 映画音声解説の製作

a. 点字図書

今年度より点字図書の製作体制はコロナ禍以前のペースを取り戻すことにしました。点訳についての個別の相談は、電話や Zoom に加え、対面の相談会を 3 回開催しました。

校正作業は、視覚障害者と晴眼者がペアになって行います。点訳された図書を視覚障害者が読み上げ、晴眼者が原本と照合します。コロナ禍を契機に導入した Zoom 方式は完全に定着しており、2024 年度も継続しました。

また、製作基盤の強化を図るために 2023 年度から導入した自動点訳や BESX を用いた校正方式は、その利用を推進しました。自動点訳とは、原文に対して一文字ずつ人が入力しなければならない従来の方法に対して、点字入力を大幅に省力化できるシステムです。本格的に運用ができれば点字図書をより迅速に製作できるほか、たとえば働いていて日中忙しい方で

も点字製作に携わることができると考えています。今年度は一部のプライベート点訳において、出版社からテキストデータの提供を受け、さらなる効率化を図りました。BESX とは、点字データに校正情報を埋め込む機能で、校正・修正作業の省力化が期待できます。今年度は BESX による校正者を増やし、点訳者への定着を図っています。

こうした取り組みの下で、目標と同数の 40 タイトルを製作しました。なお、経験の浅い点訳者の育成を強化したため、委託製作数が予定より 3 タイトル少ない 17 タイトルとなりました。

b. 音訳図書

音訳においては、目標の 65 タイトルを下回る 54 タイトルの製作となりました。

この要因には、2024 年度はじめに、市内の外部ボランティア業務の一部をセンターが引き継ぎ、これらを日々の業務に組み込むことに時間が割かれたことが挙げられます。従来、音訳図書を最終的に完成させる編集作業を外部ボランティアが担っていました。しかし、依頼先のボランティアグループで活動できるボランティアが減少し、編集作業そのものをセンター側が引き受けたこと、またその作業を業務に組み込むことが影響し、製作数がダウンしました。

また、一部の音訳者に負担が集中していた現状を見直し、神奈川県内の他施設の製作数を参考に、作業ペース全体の見直しを行っていることも影響しました。見直しにあたっては、音訳者が私生活を大事にしながら、長くご活躍いただけることを念頭に環境整備を進めました。

c. DVD 映画音声解説

音声解説の製作では、目標の 10 タイトルを下回る 7 タイトルの完成に留まりましたが、2 タイトルが完成間近であと一步のところでした。

前年度に受け入れた新規ボランティアのうち、20 代～40 代の若い世代がとくに意欲的に取り組んでいるものの、2024 年度はさらに 10 代の視覚障害当事者や洗足学園音楽大学（高津区）の学生も製作メンバーに加えることに注力し、丁寧に体制づくりを行いました。このボランティア養成に関しては次項で詳しく報告いたします。

(ウ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声解説製作ボランティアの養成

a. 点訳図書ボランティア（点訳者）

点訳ボランティア養成講座を、市内の点訳ボランティア団体から推薦された 5 名の受講生に対して、6 月～12 月にかけて 17 回にわたり開催しました。点字図書の製作に必要な知識・技術として「かなづかい」「文節分かち書きと語の切れ続き」「英文とインターネットアドレス」「記号類の使い方」「本文のレイアウト」「標題紙、目次、奥付」「読みの調査」について解説しました。なお、2022 年度は実施しなかった市立中原図書館の見学を再開

しました。コロナ禍以来、実施を見合わせていましたが、難読語や固有名詞の読み方を調べるツールとして図書館を活用してほしいという方針で再開したものです。

受講生 5 名全員が審査課題に合格し、3 月 13 日の点訳活動説明会にて点訳者としての第一歩を踏み出しました。

点訳校正者会議を 4 月 17 日（来所 9 名、Zoom 参加 11 名）、10 月 30 日（来所 5 名、Zoom 参加 10 名）に 2 回開催しました。昨年度同様、来所参加を基本としつつオンラインを組み合わせるハイブリッド方式としました。点訳・校正方針についての議論を行い、連絡会で配布する「点訳通信第 6 号」について検討しました。

点訳技術のスキルアップとセンターからの情報提供、点訳者相互の交流を目的に、点訳関係者連絡会を 2 回開催しました。第 1 回は 5 月 29 日（来所 13 名、Zoom 参加 25 名）、第 2 回は 11 月 27 日（来所 15 名、Zoom 参加 9 名）です。第 1 回では外部講師をお招きして、

「漫画点訳」について、研修を実施しました。近年は一般書の中にも漫画やイラストが多く取り入れられており、点訳者は頭を悩ませています。「鬼滅の刃」など、豊富な事例とともに、点訳の考え方、注意点などをお話いただきました。第 2 回では、前・後半で 2 つの内容を実施しました。前半は「点訳通信第 6 号」を配布し、新しい点訳方針を確認しました。後半では交流会を実施しました。これは、コロナ禍で実施を取りやめた新年会の代替となるもので、点訳関係者相互の交流を目的としています。本交流会では、ふだん直接お話しする機会の少ない触読校正者（点字使用者）と点訳者が交流できるような企画としました。

b. 音訳図書ボランティア（音訳者）

2024 年度は、音訳者の高齢化が進む現状を打開すべく、年度始めに受け入れた 50 代を中心とした 8 名の新人音訳者たちが定着するよう、フォローに力を入れました。「新人音訳者」と、指導者的立ち位置である「校正者」がマンツーマンでペアを組み、職員が間に入って調整を重ねながら、デビュー本の完成を目指しました。また、校正者については 1 名を新たに補充し、計 12 名体制とすることで、さらなる強化を進めました。

中堅・ベテランの音訳者に対しては、スキルアップのために音訳関係者連絡会で研修を実施しました。音訳の作業は基本的に個人で進めることが多く、ご自身の持つ表現や技術に不安を感じる方もいらっしゃいます。こうした背景を受けて、研修ではグループワークを企画し、一冊の本を共同で製作する体験を通して、音声表現と校正技術の向上を図りました。



[音訳関係者連絡会① 研修の様様]



[音訳関係者連絡会② 施設見学]

こうした中で、高齢化への対策として、若い音訳者を受け入れるため、養成講座のあり方自体を大幅に見直す必要が明らかとなりました。2023 年度をもって養成講座担当者 2 名が講師役を退いたことを受け、2024 年度は職員のスキルアップに集中的に取り組みました。具体的には、音訳担当職員が朝日カルチャーセンター新宿教室「音訳・初級」に一年通って理解を深めたほか、外部講師などを積極的に引き受けることで、指導者としての技術を高めるための取り組みを行いました。

c. DVD 映画音声解説ボランティア

サピエ図書館の製作基準が変更されたことに伴い、ナレーターの確保が急務となりました。加えて、高齢の読み手が多い中、若年層向け映画の音声解説には、より作品の雰囲気合ったナレーターの確保が課題となってきました。こうした課題の改善を目的として、洗足学園音楽大学（高津区）のキャリアセンターに協力体制の構築について相談したところ、快諾を得ることができ、学生の参加が実現しました。

6 月には、希望する学生を対象に登録説明会を実施し、18 名が参加しました。視覚障害のある方々への「声」による支援に前向きな意見も多く寄せられました。最終的な登録者は 31 名となり、12 月頃からは、学生の声によるナレーション付き作品の配信をサピエ図書館上で始めることができました。



[音声解説ナレーター登録説明会の様様]



[広報用のチラシ]

既存のボランティアの養成は丁寧に継続しつつ、製作にあたっては情報の精度を高めるため、「ChatGPT」や「Gemini」などの生成 AI を積極的に導入しました。画像認識機能なども活用し、原稿作成の支援と効率化に役立てています。

また、音声解説原稿を、視覚障害者の立場で確認する「モニター」も高齢化していることから、そのノウハウを若い世代に継承する取り組みとして、18 歳のモニターを新たに受け入れました。指導役のモニターとペアになってもらい、一緒に検討会を行い、実作業を通じて次代を担う人材の育成を進めています。

② 相談・訓練事業の取り組み

(ア) 相談・訓練実績

今年度は、訪問、来所、オンライン、電話、メール、アウトリーチの 6 つの方法からご希望に応じて対応しました。いずれの訓練・相談も、連絡があってから実施に至るまで日を置かないように、スピード感をもって対応しました。

近年の特徴として、アウトリーチがあげられます。福祉分野のアウトリーチとは、一般に必要な助けが届いていない人に支援機関などの側からアプローチして支援を行なうことを意味します。視覚障害リハビリテーションの分野では中間型アウトリーチとして、支援者が当事者の通院している眼科に出向き、そこで相談を行うことが多いです。当センターも市内の眼科クリニックや視覚障害者専門のデイサービスにおいて、センター職員が出向いて相談を行っています。眼科内において、検査と診察と相談がひとつなぎとなり、治療と心のケアと生活でできることを増やすリハビリを同時に進めることを目指しています。

眼科の患者さんの中で、例えば 80 歳以上の加齢黄斑変性の患者さんは多いです。こちらの病気の特徴として、視野の中心部が欠けていくため、自分が見たいところが見えにくくなり、読み書きが不自由になることがあげられます。患者さんの多くは「かけメガネ式の高倍率ルーペで新聞を読みたい」というニーズを持って、眼科医療者から紹介を受けセンターにつながります。私たちはまずはニーズを受け止めて、ルーペや拡大読書器を試していただきます。このトライ＆エラーに寄り添い、少しでも自分にあう補助具と一緒に探す過程で、病気や年齢と折り合いをつけていく準備ができるようになって、音声で情報を得ることへの切り替えや抵抗感のある白杖を持つようになることがあります。支援は一筋縄ではいかないこともあります。患者さんの不安を少しでも軽減し、自分らしく生活していく道をともに探っていきます。

相談・訓練全体を見渡しますと、ICT（スマートフォン）のニーズが年々増加傾向にあり、視覚障害当事者職員 2 名で担当しています。相談・訓練以外でも、利用者が iPhone の操作でわからなくなったときは、電話や来所時に気軽にたずねることができるようにしています。そのようなことも、利用件数が増えている要因と思われます。また、いずれの職員も、自らの指導スキルや最新の知識をアップデートさせるために、各種研修に積極的に参加

したり、関係団体の情報交換会で事例発表したりするなど、自己研鑽にも力を入れています。

また、今年度は点字のニーズに多く応えたことも特徴のひとつです。とくに、全盲ろうの方、先天ろう（ろうあ）で進行性弱視の方、全盲で進行性難聴の方など、盲ろうの方の訓練希望が増えており、その多くは神奈川県盲ろう通訳介助員のサポートを受けながら、訓練を進めました。指点字やサポート機器の導入など、その方が少しでも楽にコミュニケーションができるように模索しながら訓練を進めています。

訓練回数は全体として減少しておりますが、このことは、利用者のニーズの変化によるものと捉えています。契約を交わした上での長期的な訓練よりも、自宅周辺や行きなれた場所まで安全に行けるようになりたいといったニーズが増えています。こういった都度寄せられる利用者ニーズに対しては、お待たせすることなくより効率的に対応しました。

利用者の高齢化や障害の程度、進行にあわせて、また各種制度の変更やヘルパーの事情など、社会や地域、利用者の変化に柔軟に対応することがとても大切です。川崎市という地域の中でセンターの存在が周知され、頼りにされるためにも、今後もセンターの仕事を外部にできる限り知っていただくことを意識して事業を行ってまいります。

2024	相談	
	名	回
歩行	67	113
PC	29	59
ICT	42	143
点字	11	56
生活	111	201
補助具	150	150
その他	4	4
計	414	726

[2024 年度 相談回数]

2024	訓練	
	名	回
歩行	9	105
PC	1	16
ICT	4	34
点字	3	61
日常生活	1	3
その他	6	8
計	24	227

[2024 年度 訓練回数]

(イ) 「働く人たちの座談会」の開催

9月14日に「働く人たちの座談会」を実施しました。対象者は、2021年度以降センターの相談・訓練を受けられた方のうち、一般就労をしている方・一般就労を目指して就職活動をしている方で、午前9名・午後10名の方に参加いただきました。参加された方は、それぞれの職場において、トラブルや苦手なことに対して自力で苦勞しながら対処したり、社内で協力を得たりしながら仕事をしています。座談会では、音声パソコンの訓練について、オフィス内の移動や声かけ、生活の知恵と工夫、趣味など多岐にわたる話題を共有し、視覚障

害者「あるある話」などで盛り上がりました。笑いが随所に起こり、活発な情報のやりとりができたため、参加者からはまた次回も開催してほしいというたくさんのお声をいただきました。また、お昼の時間帯には、QD レーザのレティッサオンハンド体験会を実施し、希望される方に体験していただきました。

(ウ) 「ヘルスキーパー座談会」の開催

按摩・マッサージ・指圧師の資格を有し、一般企業でヘルスキーパーとして働く方を対象に、日ごろの困りごとや情報交換など交流できる座談会を8月17日に開催しました。参加されたのは、年齢の近い同じ眼疾患の4名の女性でした。全員が中途障害のため、どこかのタイミングで理療の道へキャリアチェンジして、苦勞されながらも社内で着実に信頼を重ねた仕事ぶりがわかるお話を伺いました。

話題の中心は、やはりマッサージ業務や事務処理のパソコン環境について、会社のシステムやセキュリティを重視するあまり、視覚障害者が使いやすいスクリーンリーダーなどの環境を整えるための理解がなかなか進まないという状況を共有しました。その一方で、専門の社員が使いやすいようにサポートしてくれる環境が整っているとおっしゃった方もいました。終始和やかな雰囲気、日常生活の話や趣味についても会話を交わされ、最後には、お互いに連絡先を交換される姿も見受けられました。

(エ) 訓練生屋外交流会の開催

屋外交流会は、訓練生同士の交流を図ることを目的とした恒例行事で、今回で10回目の開催となります。今回は10月2日に、訓練生9名、付き添い7名、職員8名の計24名で、川崎市の福祉バスを貸し切り、箱根大涌谷の「箱根ジオミュージアム」を見学しました。

「箱根ジオミュージアム」では、学芸員の説明を聞きながら地層断面の模型や箱根周辺の立体模型、資料室から出していただいた溶岩や軽石、火山灰に実際に触れていただきました。皆さま興味深く触られており、溶岩に触った際には「思ったより重いんだね」、「ゴツゴツしているね」といった感想が出ていました。

昼食は小田原の「鈴廣かまぼこの里」へ移動し、金目鯛の鯛めしやおでん、揚げかまなどの海鮮を中心とした和食をいただきました。昼食の時間に訓練生同士、様々な話題で盛り上がった様子です。センターで受けた訓練について以外にも、普段の食事のことや参加されているイベントについて等、幅の広い内容の情報交換がなされたようでした。交流会終了後には、「お昼ご飯の量は多かったけれど美味しくいただきました」、「見えにくくなって間がない中で皆さんと交流が出来て良かった」などのお声をいただくことが出来ました。



〔ジオミュージアムにて溶岩に触れている様子〕 〔鈴廣かまぼこの里前にて集合写真〕

(オ) 出張エクササイズ

今年度も麻生区（6月27日）と高津区（1月22日）での出張イベントをそれぞれ1回ずつ開催しました。内容は、「体と心をほぐすエクササイズ」と生活を便利にする視覚障害者用具を体験してみよう」として、前半は上級パラスポーツ指導員の資格をもつセンター当事者職員の椅子に座ってできるリラクソストレッチ、後半は2グループにわかれて座談会を行いました。座談会のテーマは、歩行と最新の活字読み上げ機器に定め、白杖を今まで持たなかった方が同じ当事者の方に「持った方がよいよ」と言われてはじめて持つことにした話や、雨の日の歩き方や白杖が出先で折れた時にどうするかなど、お話が進みました。また、音声読み上げ機器も皆さまが関心を持って体験されていました。

(カ) 「安全で探しモノの無い暮らしを目指そう！整理収納のきほん」講座

講師に濱崎^{はまさきてるみ}輝美さん（株式会社良品計画勤務。整理収納アドバイザー2級・3級認定講師、防災備蓄収納1級プランナー、時短家事コーディネーターエキスパート）をお迎えし、10月12日に対面（当事者20名、付き添い11名参加）とZoom（15名参加）のハイブリッドで実施しました。センターのある利用者さんが川崎市内の無印良品でお買い物をしたときに、店員さん（濱崎さん）が相談にのってくれてとってもよかった、他の視覚障害の方にもぜひおすすめしたいとセンターに話をもってきてくださいました。そして、濱崎さんも快くお引き受けいただき、講座が実現しました。

自宅内でモノが増えていく「あるある話」は盛り上がり、モノとのつきあい方、向きあい方は、個別の訓練ではカバーできない俯瞰した内容となりました。整理・収納・片づけ・掃除はそれぞれ違うこと、段階があることを学び、整理と収納については実際に演習で体験することができました。

見えにくさが進んで自分ができなくなったことなど自分の生活を棚卸しして、今日をきっかけに前向きにできることをやってみたいという感想を何名かいただき、好評でした。

③ 視覚障害者用具の展示と斡旋

今年度は1,564点（前年度1,490点）の斡旋を行いました。

見えづらさによる様々なニーズに応えられるよう、新商品を展示品として積極的に取り揃えました。その一つ、赤外線リモコンを使用するテレビやエアコン等を音声で操作できるマルチリモコンは、その機能に対応している扇風機を操作見本用に導入し、音声でのリモコン操作を実際に体験できるように整えました。また、視覚に障害がある方の歩行をガイドする屋内専用のテープは、見本を用具展示ルーム内に敷設し、白杖や足裏で触れたときの感覚をお試しいただけるように工夫いたしました。

さらに、音声読み上げ機能付きの拡大読書器のうち、バージョンアップによって通帳読み上げ機能が追加された商品について、視覚障害当事者自身ではバージョンアップの操作が困難な市内の方には、スタッフが訪問するなどに対応し、従来からニーズの多い通帳読み上げ機能をお使いいただけるよう努めました。その他、長傘で雨音が静かになるよう生地に工夫が施されている商品や、白杖のグリップカバー、多機能なラジオでデイジー図書の再生もできる商品などを取り揃えました。

用具の斡旋事業は、当事者のQOL向上につながる大切な事業で、今後も来所者が増えてくると考えられますので、視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの生活訓練スタッフと共に、課題解決のツールとして斡旋できるように努めてまいります。

④ 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及

見えづらくて不便さを抱えていながら、家の中に閉じこもってしまう人が多くいます。そのような方々にセンターにつながってもらうには、医療機関、福祉事務所、地域の支援センターとつながり、センターの事業を理解してもらい、当事者を紹介してもらう必要があります。センターでは、眼科医療者や、神奈川県内の視覚リハビリテーション関係の団体との情報交換をオンラインで定期的に行い、さらにその輪を広げるためのセミナーの開催などを行っています。

また、視覚障害者支援・訓練団体との情報交換、市内のICT関係のボランティアグループとの定期的な情報交換も行いました。

(ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携

a. 眼科病院医療者との定例会「ビジョンサポート川崎」や病院開催のセミナー参加
川崎市内を中心とした眼科医療者と当センターの情報交換の場「ビジョンサポート川崎」を、毎月1回、オンラインで持つようになって5年がたちました。

10月26日には、センター近隣にある総合新川橋病院の患者さんとご家族向けのイベント第2回 新川橋視機能支援セミナー「見る見るサポート」に当センターも参加しました。第1回から5年ぶり、コロナ禍を経て初めての対面イベントで、座談会と用具体験会の2部構成

で行われました。座談会のテーマは、「ロービジョンケアとビジョンサポート川崎の活動について」、医師、視能訓練士、看護師、センターから当事者職員と歩行訓練士が登壇し、
なかどまりさとし
仲泊 聡先生（神戸iクリニック院長）が提唱されているロービジョンケア6つのステップ（ニーズ調査、視機能の再評価、必要書類作成、社会資源情報、ロービジョンエイド、環境整備）に基づいてトークは進められ、患者さんやそのご家族など、約20名が話に耳を傾けられました。

後半は用具体験会で、「レティッサオンハンド」のQDレーザ、バリアフリーeスポーツのePARA、「音戦宅球」のタニーズ3社と当センターが参加しました。最新の機器、余暇、日常生活まで幅広い情報提供の機会となりました。



〔視る見るサポート 座談会〕

〔視る見るサポート 用具体験会〕

b. 医療と福祉の連携のオンライン研修

1月25日に「ロービジョンケア “見えにくいってどんなこと？” ～院内における視覚障害者への対応について」と題して、オンライン研修を実施しました。講師には、みわ三輪まり枝先生（視能訓練士・元国立障害者リハビリテーションセンター病院）を迎えて講義をいただきました。後半は、当センターの歩行訓練士が「視覚障害者の院内の誘導と視覚障害支援の実際について」をお伝えしました。川崎市内の第十五条指定医師（身体障害者手帳に必要な「身体障害者診断書・意見書」を作成できる医師）が在籍する眼科病院と、川崎市民が通院する神奈川県内や東京都の大学病院、中核病院に広報し、23名の医療者が参加されました。眼科医療者にとってロービジョンケアは、様々な面でハードルが高い仕事ですが、正確な視機能検査、患者さんへ安心していただく声掛けや誘導、機器のメンテナンスなど、基本をおさえてまずはできる範囲からお願いしたいことをお伝えしました。参加者の感想を一部抜粋します。「非常に学びが多く、後輩たちにも次回は絶対聞かせようと思います。先生方の声が非常にお優しく、ロービジョンケアってやはり寄り添ってくれる安心感を与えるのが重要なのだと思いました。」「市の福祉施設があんなに充実しているとは知りませんでした。今後患者様にもご案内できると思います。」

c. ICT ボランティアグループとの連携

近年、iPhone の操作指導に関するニーズが高く、当センターだけで市内全域をきめ細かくサポートすることはできません。そこで、センターと地域にある ICT ボランティアグループが連携し、ともに情報交換する場を 2021 年から年に 1 回持っています。今年度は 2025 年 2 月 27 日にオンラインで、各ボランティア団体と視覚障害者福祉協会から計 7 名、センター職員 2 名、合計 9 名が参加して行いました。この 1 年をふりかえって、当センターおよび各団体の活動報告や、ICT 関連の情報を共有しました。また、新たに同行援護事業所で導入されるメール配信システムなど、最新の地域の情報提供も行われました。

d. 用具展示会

12 月 1 日に逗子文化プラザ市民交流センターで、令和 6 年度第 1 回かなエールに用具展示で参加しました。かなエール全体の参加人数は 156 名で、うちセンターのブースで対応したのは 40 組ほどです。視覚障害用具をすでにご存じの方が多く来訪されていましたが、3 分の 1 くらいははじめて用具に触れる方や、支援者も参加されていました。

e. 東京医薬看護専門学校視能訓練士科の講義、見学受け入れ

昨年度から東京医薬看護専門学校視能訓練士科の学生に対し、センターの見学受け入れと学校に出向いての講義を行っています。今年度は 5 月 28 日にロービジョンゼミを専攻する 2 年生 10 名、11 月 8 日には 1 年生 17 名が来所しました。用具や図書を実際に見ていただき、歩行訓練士が自分の仕事を紹介し、当事者職員が見えなくなってからセンターにつながりリハビリを受けて今日に至るまでの話をしました。学生たちは当事者の話を実際に聞く機会のはじめてだったため、最初は心配した顔をして聞いていましたが、最後は安心したようで、センターの役割についての理解がより深まったことがアンケートからもうかがえました。学生の感想を一部抜粋します。「当事者の声を聞いて、その気持ちを考えただけで心が苦しくなった。とてもつらいし、この先のことも考えなければならなくて、私たちだとわかりえないことが多いと感じた。しかし、その人のために思ったサポートや提案ができるようになりたいと思った。白杖を持った方がいたら、何か声をかけ手伝いができるように、行動ができる人になりたいと思った。いろんなものの使い方を知って、紹介できるようになりたいと思った。」「自分はまだまだ勉強中の段階だが、将来少しでも患者さんに寄り添える、困っている方に助け船が出せる視能訓練士になりたいと思った。」

また、12 月 10 日には学校に歩行訓練士が出向いて、2 年生 25 名に「ロービジョン医学」歩行訓練士の仕事、視覚リハビリテーションの実際をテーマに講義を行いました。そのうちの 10 名は、5 月にセンターを見学している学生たちです。学生たちがこの先就職をして視能訓練士として活躍する時に、ロービジョンの患者さんに視覚障害者用具のことを上手に情報提供することで、患者さんの次の一步を支えてほしいと願っています。そのため、歩行訓練

士の仕事を用具に寄せて講義をおこないました。たくさんの知識を吸収できる学生時代に、センターの存在や役割や視覚障害について学んでもらえることは貴重だと考えています。

(イ) 啓発・普及

市内小学校の福祉の授業に、当センターの視覚障害者職員を派遣しました。その他、近隣の川崎市複合福祉センター「ふくふく」で開催される同行援護従業者養成研修（一般課程）にも講師派遣をし、ガイドヘルパーの養成に協力しています。

a. 出張福祉授業

- ・高津小学校（4年生約200名）

開催日：6月20日

視覚障害者の学校や日常での生活について、簡単なゲームや便利グッズ、点字教科書や音声時計の紹介を交えて講演をしました。質疑応答も活発で、生活に密着した疑問が多く、子どもたちが自ら視覚障害をイメージして聞いてくれたことがうかがえました。

- ・川崎区内の宮前小学校（4年生約130名）

開催日：11月26日

視覚障害者の日常生活について、普段の様子や工夫、困りごと等を紹介しました。自分の身近な生活、料理や外出時のことなどから積極的な質問がでました。小学生にもできるサポートがあることもあわせてお伝えし、児童と一緒に考えました。

b. 同行援護従業者（一般過程）研修「同行援護の基礎知識」講師派遣

開催日：4月18日・6月13日・10月11日・11月29日（延べ参加者48名）

場所：総合研修センター（ふくふく2階）

同行援護従業者の養成研修「同行援護の基礎知識」に講師を派遣しました。午前は、当センターを見学、視覚障害者の生活用具や図書の貸出について、実際の物や様子を見てもらいながら説明をしました。午後は、視覚障害者が用具を実際にどのように使って生活しているか、また、用具の給付制度についてなどの説明をおこないました。視覚障害者の生活について、用具やそれに関する制度の紹介や、ICT利用と当事者としての体験や工夫などを交えた講義を行いました。

c. 夏休みボランティア体験「チャレボラ2024」への講師派遣

開催日：7月31日

場所：福祉パルなかはら

小学4年生から中学2年生6名の参加があり、小学4年生の授業で福祉について学ぶ時間があることから、障害について関心を持った児童たちが集まりました。

前半は、最初にシミュレーションゴーグルを使って視野狭窄と白濁を体験してもらい、探し物や書類を読む時にどんな不自由があるかを体感してもらいました。後半は誘導実習で、お買い物の場を設定し、当事者と会話をしながらお買い物を安全に楽しくできる工夫について考え、練習をしました。

d. 川崎市文化財団主催・「施設のバリアフリー情報&ルートマップを作成しよう」講師派遣

開催日：2月19日

場所：アートガーデンかわさき

参加者数：8名

川崎市文化財団主催の第1回パラアート・ミーティング（課題解決研修）「施設のバリアフリー情報&ルートマップを作成しよう」、市内の文化関連施設の職員向けの研修に歩行訓練士を派遣しました。視覚障害者の施設利用にあたって、喜ばれる配慮についてお伝えしました。後半はフィールドワークとして、川崎駅から研修会場まで、白杖と弱視シミュレーションゴーグルをつけて、歩行を体験しました。エレベータのボタン操作や人の乗降が視覚障害者にとって必ずしもやりやすい環境ではないことを体験し、階段やエスカレータもあわせて情報提供し、その方に選んでいただくことが大切だという感想を共有しました。参加者からは積極的な質問や感想が多く寄せられました。

e. 第8回手をつなぐフェスティバルへ参加

開催日：11月16日（土）

場所：とどろきアリーナ

参加者数：23名

センターの参加は今年度で3度目となりました。ブースにいらっしゃるメイン層としては、小学生以下の児童とその家族がほとんどで全体的に和やかな流れでした。

出展内容としては、点字体験・便利グッズの紹介・白杖体験・VoiceOverを用いたiPadの体験などを企画し、特に今回からは視覚障害者がスマホをどう使うのかということをイメージしながらiPadを操作してみるということを盛り込みました。

(ウ) その他

a. 八丁畷駅とセンター間におけることばによる道案内の作成

ことばによる道案内とは、視覚障害当事者が目的地までの目印や手がかり、周辺状況、注意する事項などを事前に文章によって得ることで、単独でも安全に往来ができるようにするものです。

これまでセンターの最寄り駅である京浜急行八丁畷駅とセンター間のことばによる道案内は、作成されていませんでした。利用者からことばによる道案内作成の要望があり、センターと八丁畷駅間について案内を作成、ホームページにて公開いたしました。

センターの歩行訓練士が原案を作成し、視覚障害当事者職員に協力を得て再度編集して完成に至りました。作成に当たり留意したポイントは、踏切の横断と進行方向の分かりづらい横断歩道では危険が伴うため、手がかりや横断箇所と横断先の情報を詳細に記載するようにしましたことです。

なお、センターと川崎駅間の案内については「NPO 法人ことばの道案内」に作成を依頼し、すでにホームページにて公開しています。

b. エスコートゾーンの調査

エスコートゾーンとは、視覚障害者が横断歩道から外れることなく道路を横断できるように配慮された設備です。横断歩道の中央部に点状の突起をつけており、簡単にいうと横断歩道上の点字ブロックのような位置づけです。とくに横断距離が長い交差点や、直角に交わらない変則的な形状の交差点において、視覚障害者がより安全に、より確実に横断するのに有効な設備です。

川崎市建設緑政局施設維持課の依頼を受けて、市内の主要駅周辺の交差点、横断歩道にエスコートゾーンを敷設するための事前調査を行ないました。視覚障害者の歩行の特徴を把握している歩行訓練士が現地調査を行い、対象となった交差点の中で優先的に敷設してほしい場所の順番と理由をのべ、調査報告を提出しました。現在、そのうちのいくつかの交差点では、エスコートゾーンが敷設されています。

c. 高津小学校の全盲の児童への支援

高津小学校6年生の全盲の児童への支援を継続しました。担任教諭と連絡を取りながら、点字教材・試験問題の検討や、学校生活での困りごとの相談に対応しました。また、全盲の児童が、自習の時間、読書の時間に自分で好きな本が読めるよう、センターが選定した図書を定期的に貸し出すサービスを継続しました。昨年度同様、2か月で30冊を貸し出す方式としました。本事業を通して、教育における点字の重要性を改めて認識することができました。

d. N1 VICTORY プロレス観戦

開催日：8月12日

場所：カルッツかわさき

参加者数：41名

川崎市出身のプレスラー大原はじめさんの地域活動の一環で、センターが募集をした視覚障害者が招待されプロレスを観戦しました。

視覚障害者向けに実況生中継&解説をして、それをFM放送で聞きながら耳で楽しむプロレスイベントです。今年で5年目となり、選手同士のぶつかりあう音、技の応酬、勝利の際の大歓声など、ライブならではの迫力を堪能していただきました。

⑤ 広報活動・イベントの開催

(ア) 広報活動

a. センター事業説明会

視覚に障害をもち様々な不便を感じている方々が早期に当センターに繋がるように、主に行政の障害者担当や高齢者・障害者施設の方々、医療従事者に対して、毎年1回、センターの事業説明会を行っています。今年度は8月28日に行い、区役所、障害者相談支援センター、リハビリテーションセンター、眼科病院から9名の参加がありました。図書の貸出、歩行訓練、パソコン訓練、iPhone 訓練、生活訓練、便利な用具の斡旋などについて担当から具体的に説明しました。とくに、当事者職員自身の体験から中途視覚障害者の心理変化と視覚リハの大切さを伝えたお話は、参加者全員が熱心に耳を傾けていました。

b. メディアによる広報

・新刊図書情報誌「ぶっくがいど」（偶数月、年6回発行）

2か月に一度発行する情報誌です。新刊の点字図書、音訳図書、シネマ・デージーや人気のある図書のほか、音声解説付きDVD映画体験上映会、音楽コンサート、読書会などのイベント情報、新商品情報などを掲載しています。2025年6月号より、新たなコーナー「ネット閲覧室お届けサービスリターンズ」を設け、ネット閲覧室お届けサービスを利用していない方にも情報提供をしています。

また、点訳・音訳ボランティアの方々にも墨字版を無料で送付しています。

＊2025年3月末時点、2025年4月号発行数（1号分発行数目安）

点字版 79部、音声デージーCD版 205枚、墨字版 295部

・メールマガジン「アイ eye」（月2回、10日・25日に発行）

メールマガジンは、インターネットを通してパソコンやスマートフォン、携帯電話に送信するメールの広報誌です。タイムリーな情報、イベントの紹介、地域の情報、職員のコラム、図書や用具の紹介などが掲載されています。読者からは「センター職員を身近に感じる」「役立つ情報が助かる」と好評をいただいています。今後も読者の方が楽しみにしている情報や役に立つ情報を提供できるようにしていきます。

＊2025年3月末、登録者数 388名

- ・音声版メールマガジン「音声版アイ eye」（奇数月、年6回発行）

メールマガジンを読むことができるのはパソコン、スマートフォン、携帯電話の利用者のみに限定されます。もっと多くの方に利用していただくために、メールマガジンの音声版を発行しています。2か月・4号分をまとめ、合成音声で読み上げた音声版を貸し出しています。

＊2025年3月末、貸出者15名（1号分の貸出者実数）

- ・ホームページ <http://www.kawasaki-icc.jp/>（毎月・随時更新）

ホームページでは、各種イベントをはじめとしたお知らせの他、センターに初めて関わりを持つ方が知りたい情報を掲載しています。アクセシビリティに配慮し、文字の大小、白黒反転を選択することができます。スクリーンリーダーで読み上げた時に、聞き間違えにくいように言葉の区切りにも注意しています。また、スマートフォンで閲覧する方のためにスマホ専用サイトも用意しています。

2024年度では、日常生活用具の要綱から、関連する視覚障害者向けの用具を表示させたほか、センターと京急八丁畷駅との往路・復路の様子を言葉で説明した「ことばによる道案内」を製作し、センターまでの道のりがより詳しくわかるようにしました。

（イ） イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害市民もこれらの文化に触れることができるように、例年、多数のイベントを開催しています。

今年度は、春のコンサート、冬のコンサート、センターまつり、音声解説付きDVD映画体験上映会（毎月）、歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ：5回）、CDで聴くクラシック音楽講座（5回）、ヨガ教室（12回）、読書会（年4回）等を開催しました。

a. 春のコンサート（ウォルフィージャズカルテット）

開催日：5月11日

参加者数：109名

リーダーのウォルフィー佐野さんは、サクソ、フルート、ボーカルをこなす全盲のJAZZアーティストで、当日もご自身が楽器をいっぱい詰め込んだ登山リュックのような荷物を背負って会場入りとなりました。そのウォルフィー佐野さんを筆頭に、ピアノ、ウッドベース、ドラムスによるカルテットを特別編成し、スタンダードな名曲からご自身作曲の楽曲まで、随所にアドリブを挟みながら巧みな演奏をたっぷりと聴かせてくれました。

またウォルフィーさんは、MCでも「全国民総ミュージシャン計画」なるものを宣言したほどで、会場にお越しの十数名がステージに上がるなどして、会場全体で「聖者の行進」を演

奏するのは、音楽の持つ力とウォルフィーさんの類まれな演出力を感じさせられたものでした。

b. センターまつり

開催日：12月14日

参加者数：203名

センター最大のイベント「アイ eye センターまつり」を開催しました。センターを利用されている方も、初めて来る方も、皆さまにとって有益で楽しんでもらえるイベントを目指しました。今回のアイ eye センターまつりのテーマは5つ、視覚障害者のための相談コーナー、市内のボランティアの活動紹介、点字や音声パソコンなどの各種体験会、最新視覚障害者用機器の展示会、ライブイベントの開催です。川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（愛称：オブリガード）、川崎市視覚障害者福祉協会の協力を得て、約200名もの方にそれぞれの企画を楽しんでいただきました。

c. 冬のコンサート（ヴァイオリンと打楽器のデュオ「D o t & L i n e !」）

開催日：2月15日

参加者数：105名

ソロで多彩な活動をする全盲の穴澤雄介さんと小川このんさんの2人で構成する「D o t & L i n e !」は、それぞれが担当する楽器の音楽的要素を表していて、点的な音を得意とする打楽器と、線的な音を得意とするヴァイオリンのデュオという意味です。昨年リリースされたアルバム「休食当番」から全11曲を演奏していただき、ご来場の皆さまに演奏とトークを楽しんでいただきました。

会場に集まった人たちからは、いろいろなジャンルの曲が聴けて楽しかった。とても迫力があって元気と活力をいただきました。口笛もトークも楽しめました。素晴らしい演奏でした！また聴きたいです。感動しました。などの感想をいただき大盛況でした。

d. 音声解説付き DVD 映画体験上映会（開催回数：12回）

音声解説付き DVD 映画の体験上映会は、根強い人気のあるイベントです。新型コロナの5類移行にともない、流行期は金・土曜日の2日間にわけて開催していたものを、従前の土曜日のみの開催に戻しました。

今年度の特徴としては、市販の音声解説付き映画のDVDの一層の普及を図るため、これらも上映作品に加えたことがあります。外出への意識が変わった社会的な情勢もありますが、1回あたりの参加者数は、20名から38名（計456名）と2倍近くまで増えたことから、大勢の利用者の関心を得ることができました。

トピックス：母べえ 上映会終了後に参加者たちと交流

6月22日開催の音声解説付きDVD映画の体験上映会「母べえ」上映終了後、参加者たちと交流会を行いました。もともと上映会というイベントの特性上、参加者同士が接点を持つことはありませんでした。しかし、行動範囲や他者との付き合いが限定的になりがちな高齢当事者にとって、接点をもつ誰かを増やしていくことは、社会に広く繋がっていく機会にもなります。そのハブ的な役割をセンターが担っていきたいという考えから、試みとして企画しました。

交流会には17名が参加し、映画の感想や戦争体験などを語り合いました。亡き母との思い出では、話している最中に涙ぐむ参加者の姿もあり、終えた後には参加者からあたたかい拍手が溢れ、全体的にしみじみと味わい深いイベントになりました。



〔映画鑑賞後の交流会〕

e. 歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ）（開催回数：5回）

国立国会図書館が所有する約5万点のSPレコードや金属原盤の音源コレクションをテーマに沿って紹介するイベント「れきおんクラブ（歴史的音源を聴く会）」を、年5回開催しています。今年度は、コミカルな音楽を集めた「三木鶏郎と冗談音楽」、れきおんふるさと巡りの第3弾「北東北編」と第4弾「中国・四国編」、昭和初期の検閲で発売禁止になった「禁じられたレコードを探して」、日本でも古くから親しまれた「フォスターとホームソング」といった様々な種類の曲を専門家の丁寧な解説つきで、参加者の方々にお楽しみいただきました。

f. CDで聴くクラシック音楽講座（開催回数：5回）

クラシック音楽を身近なものとして楽しんでもいただくための音楽講座を、年5回開催しました。

実際に、CDに収録された様々な名演奏を丁寧な解説とともに聴いていただくことによって、少々近よりがたさのあるクラシック音楽の真の魅力を実感しながら楽しいひとときを過ごしていただくこと、また新たな発見をしていただくことが大きな目的です。

クラシック音楽は大変に幅広く、また様々なアプローチが可能です。そこで本講座では、各回でメンデルスゾーンやモーツァルト、ヘンデルといった作曲家、もしくはウイナ・ワルツやイタリアン・バロックといったテーマを決めて、その魅力を味わっていただくために名曲・名演奏を厳選して聴いていただく形で進めました。

g. ヨガ教室（開催回数：12回）

ヨガは自分のペースで体の状態や呼吸に合わせて行なうことができるので、視覚に障害があっても比較的取り組みやすい運動です。

ヨガの講師は「一般社団法人チャレンジド・ヨガ」の川崎エリア担当の方に継続依頼しています。参加者の年齢やお体の状態は様々なので、安全第一を心掛け、まずは仰向けで呼吸の確認から座位で体をほぐし、毎回のテーマに沿ったポーズを分かりやすい言葉でゆっくりと、必要に応じて補助員が少しお手伝いをしながら進めていきます。

また、参加者同士でお昼を食べながら気軽にお話できる「ヨガランチ会」を1回開催しました。それぞれがお弁当を持ち寄り、生活の工夫、耳よりの情報、最近食べておいしかった食べ物などなど、様々な情報交換を通して、楽しい交流の時を過ごしました。

h. 読書会

盲人図書館時代から続く歴史ある行事「読書会」は、1つの作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。本をより実感を持って味わってもらうために、ひと工夫を加えた読書会を開催し多くの方に喜ばれました。

・第1回 小説の中の形を楽しむ会

開催日：6月15日（土）

作品：「日日是好日」森下典子著

場所：川崎市視覚障害者情報文化センター

参加者数：25名

センター職員有志の協力を得て、様々なお茶道具を借用し、各テーブルに配置。また、日本点字図書館の協力を得て、茶室模型（屋根までを含んだ全体模型、屋根を取り払った内部のわかる模型）も配置しました。お茶道具が出てくる様々なシーンをデイジー図書で聞きながら、グループごとに各道具を触りながら小説を楽しむことができました。茶室の模型は、蹴り口をくりぬく形で作っていただいたので、その小ささなども体感。茶道に詳しい方もそうでない方も一緒に、小説の中の主人公に共感したり、お茶道具の使い方を体験したりすることができました。茶道の世界に触れることで、より深く読書を楽しむことができました。

・第2回 小説の中の味を楽しむ会

開催日：9月5日（木）

作品：「和菓子のアン」坂木司著

場所：川崎市北部身体障害者福祉会館

参加者数：15名

川崎市内の和菓子屋さんに協力していただき、参加人数分の上生菓子などを参加者に提供。小説の中に出てくる和菓子を皆さまで味わいながら、テーマ図書の小説を聞き、読書を楽しみました。車いす使用の方も参加され、家の近くで開催されて参加しやすい、などの意見が多数ありました。感想を語り合う時間には、好きなお菓子の話題や昔食べた甘味の話題も出たほか、ここでしか味わえない読書の楽しみ方だと好評でした。

・第3回 小説の中の味を楽しむ会

開催日：11月14日（木）

作品：「しあわせのパン」三島有紀子著

場所：麻生市民交流館やまゆり

参加者数：12名

センター近くのパン屋さんに協力していただき、小説の中に出てくるパンを再現し、参加者全員に提供しました。小説の中に出てくるパンを味わいながら、テーマ図書の小説を聞き、読書を楽しみました。「前回参加できなかったので今回を楽しみにしていた」「家の近くで開催されて嬉しい」などの意見が多数ありました。感想を語り合う時間では、主人公たちの生き方や、パン派かご飯派かなどの食の好みの話題も出て、読書と味の両方を楽しむことができました。

・第4回 触察イベント+小説の中の形を楽しむ会

開催日：3月8日（土）

作品：「その旅お供します 日本の名所で謎めぐり」綾見洋介著

場所：川崎市視覚障害者情報文化センター 多目的室

参加者数：23名

鶴見大学文学部の元木章博教授とのコラボ企画を実施。前半は元木教授による触察イベントとして、触察できる模型・触図の特徴や面白さを解説していただきました。川崎駅の商業ビル「ラゾーナ川崎」や「コロナウイルス」の模型を全員に配布し、身近に知ってはいるけれど「大きくて全容が掴めないもの」「小さすぎて触れないもの」を触る体験を楽しみました。後半は、デイジー音源でテーマ図書を聞きながら、主人公が見た厳島神社の大鳥居を模型で体感したり、触地図の順路を辿って神社の構造を把握したりして、地形が重要なカギを握る小説を楽しみました。実際に模型や触図に触れることで、より深く読書を楽しむことができました。多数の学生さんが地図や模型の触察補助をしてくださり、説明が行き届いていて理解が深まったという感想もありました。

・UD 落語会 春風亭昇吉「まんじゅうこわい」

開催日：12 月 7 日

場所：川崎市視覚障害者情報文化センター

参加者数：12 名

春風亭昇吉師匠は、障害の有る人にももっと落語を楽しんでほしいという思いから、落語ユニバーサルデザイン化推進協会（RUDA）を設立しました。その RUDA による「UD 落語会」を全国各地で開催する中で、川崎で開催したいという打診が当センターにあり実現しました。点字を読み書きできる方を中心に、また、できるだけ子供たちを入れるように参加者（12 名）を集めました。プログラムは、点字付き落語絵本「まんじゅうこわい」を昇吉師匠がよみ、参加者それぞれが絵本を一緒によむ。次に絵本に登場する生き物の 3D 模型（アリ、カラス、ムカデ、セミ、ヘビ）を触ってもらいました。その後、迫力のある落語を聞いた子供たちはとても喜んだ様子で、終わったあとは師匠を取り囲み、思い思いの質問を投げかけていました。落語、そして落語家さんと触れあう貴重な体験になりました。

⑥ 防災・減災

（ア）避難訓練の実施

ふれあいプラザかわさき全体で行う消防訓練に参加。発災した際の各自の役割を意識し、避難を行ないました。また、河川の氾濫を想定した水害時は、センターは垂直避難となり、この場に留まることが避難行動となります。そのことを職員に伝え、水害時の避難訓練いたしました。

（イ）緊急連絡網の整備

職員、パート職員へ緊急時にすぐに情報伝達できるよう個人の携帯電話番号、メールアドレスを管理しており、定期的に一斉にメールを送信し、受信可能な状態であることを確認しました。万が一の災害時はもちろん、天候急変による警報発生時の対処についても、職員に連絡できるようにしています。

（ウ）感染症予防対策について

受付カウンターのほか、各居室に手指消毒用のアルコールを設置し、スタッフやボランティアさんほか、用具の買い物やイベントにいらっしゃる方が自由に使用できるようにしています。

また、春と冬のコンサート、センターまつりの落語会では、ふれあいプラザかわさき 2 階ホールの定員数まで入場可能とし、空気清浄機や送風機を使用して空気の循環に配慮しました。

(エ) AED 機器

川崎市より支給されている AED 機器は事務室入口付近に設置し、バッテリーのステータスランプを毎日確認し、記録しています。

3. 利用状況

(1) 閲覧・貸出

	2024 年度	2023 年度
① 利用登録者数	519 名	533 名
(新規登録者数)	36 名	39 名
(点字使用者数)	119 名	122 名
② 利用登録団体	309 施設	306 施設
(新規団体登録数)	3 団体	2 団体
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,882 タイトル	3,729 タイトル
(冊数)	13,506 冊	13,103 冊
蔵書数の変化 (新収書)	153 タイトル	121 タイトル
	503 冊	370 冊
貸出数	386 タイトル	440 タイトル
	1,187 冊	1,339 冊
(内 他館借受)	96 タイトル	85 タイトル
	364 冊	304 冊
(雑誌)	133 タイトル	187 タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	29 タイトル	21 タイトル
④ 音訳図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	7,065 タイトル	6,953 タイトル
(枚数)	7,099 枚	6,988 枚
蔵書数の変化 (新収書)	327 タイトル	374 タイトル
	327 枚	374 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	23 タイトル	11 タイトル
	113 巻	65 巻
(イ) CD図書	6,907 タイトル	7,677 タイトル
(内 他館借受)	2,892 タイトル	3,417 タイトル

	(内 シネマ・デイジー)	635 タイトル	673 タイトル
	(ウ) CD雑誌	3,166 タイトル	3,586 タイトル
デイジー図書コンテンツダウンロード提供			
	メモリーメディア	3,805 タイトル	4,050 タイトル
	(内 デイジーオンラインサービス)	328 タイトル	338 タイトル
⑤	レファレンスサービス情報提供件数	358 件	317 件
(2) 資料製作			
① 点字図書の製作数			
	(ア) 製作数	40 タイトル	47 タイトル
		159 冊	182 冊
	内訳		
	委託製作数	17 タイトル	16 タイトル
		72 冊	65 冊
	委託外製作数	23 タイトル	31 タイトル
		87 冊	117 冊
	(イ) 寄贈	34 タイトル	29 タイトル
		109 冊	88 冊
	(ウ) プライベートサービス	18 タイトル	5 タイトル
② 音訳図書の製作数			
	(ア) 製作数	54 タイトル	77 タイトル
	内訳		
	委託製作数	34 タイトル	64 タイトル
	委託外製作数	19 タイトル	13 タイトル
	録音雑誌	1 タイトル	1 タイトル
		12 冊	12 冊
	(イ) デイジー編集	54 タイトル	77 タイトル
	(ウ) 寄贈	77 タイトル	96 タイトル
	(エ) プライベートサービス	17 タイトル	24 タイトル
	内訳		
	録音	10 タイトル	11 タイトル
	テキストデイジー (合成音声デイジー含)		
		2 タイトル	8 タイトル
	プレーンテキスト	0 タイトル	3 タイトル

	PDF	0 タイトル	2 タイトル		
	テープのデイジー化	1 タイトル	0 タイトル		
	テープのダビング	4 タイトル	0 タイトル		
(オ)	対面朗読	9 名	2 名		
③	テキストデイジー図書の製作数	2 タイトル	4 タイトル		
④	シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数				
	製作数	7 タイトル	16 タイトル		
	内訳				
	センター内製作数	3 タイトル	2 タイトル		
	委託製作数	4 タイトル	14 タイトル		
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成					
①	点訳ボランティア養成講座				
	開催回数	17 回	—		
	実受講者数	5 名	—		
②	点訳ボランティアスキルアップ研修会				
	開催回数	—	3 回		
	延べ受講者数	—	15 名		
③	音訳ボランティア養成講座				
	指導回数	—	17 回		
	実受講者数	—	8 名		
④	音訳ボランティアスキルアップ研修会				
	指導回数	3 回	—		
	延べ受講者数	17 名	—		
(4) 相談・訓練事業の取り組み					
①	相談 相談者数	414 名	726 回	328 名	715 回
	歩行	67 名	113 回	74 名	148 回
	パソコン	29 名	59 回	34 名	92 回
	ICT	42 名	143 回	43 名	136 回
	点字	11 名	56 回	5 名	29 回
	生活	111 名	201 回	166 名	303 回
	補助具	150 名	150 回	(*2024 年度新設)	
	その他	4 名	4 回	6 名	7 回

②	訓練	訓練者	24 名	227 回	26 名	238 回
		(新規訓練者数)	6 名		6 名	
	内訳（複数提供あり）					
		歩行訓練	9 名	105 回	9 名	108 回
		パソコン訓練	1 名	16 回	2 名	23 回
		ICT 訓練	4 名	34 回	2 名	25 回
		点字訓練	3 名	61 回	3 名	52 回
		生活訓練(日常・調理)	1 名	3 回	4 名	14 回
		その他	6 名	8 回	6 名	16 回
③	用具の展示と販売紹介	展示点数		420 点		399 点
		販売紹介点数		1,564 点		1,490 点

(5) 啓発・普及

① 事業報告会の開催

8 月 センター事業説明会 参加者 9 名

② 医療と福祉の連携研修の開催

1 月 25 日 オンライン参加 23 名

③ 授業・講座への講師派遣

(ア) 当事者職員による「視覚障害者の生活について」小学校授業

6 月 20 日 高津小学校 4 年生約 200 名

11 月 26 日 川崎区内の宮前小学校 4 年生約 130 名

(イ) 同行援護従業者研修講師

総合研修センターにおいて実施された同行援護従業者（一般過程）研修

「同行援護の基礎知識」講師派遣

4 月 18 日・6 月 13 日・10 月 11 日・11 月 29 日 延べ参加者 48 名

(ウ) 夏休みボランティア体験「チャレボラ 2024」への講師派遣

7 月 31 日 小学 4 年生から中学 2 年生 6 名

(エ) 総合新川橋病院にて、第 2 回 新川橋視機能支援セミナー

「視る見るサポート」参加

10 月 26 日 患者さんやご家族 約 20 名

(オ) 東京医薬看護専門学校（江戸川区）授業講師

12 月 10 日「ロービジョン医学」講義 2 年生 25 名

(カ) 川崎市文化財団主催「施設のバリアフリー情報&ルートマップを作成しよう」講師派遣

2月19日

8名

④ 訓練生交流会の開催

(ア) 屋外交流会(10月) (箱根大涌谷、小田原) 訓練生9名、付き添い7名

(イ) 「働く人たちの座談会」

9月14日

午前9名・午後10名

(ウ) 「ヘルスキーパーとして働く人たちの座談会」

8月17日

4名

(6) イベントの開催

(ア) 音声解説付きDVD映画体験上映会 開催数12回 延べ参加者数456名

(イ) ヨガ教室 開催数12回 延べ参加者数120名

(ウ) CDで聴くクラシック音楽講座 開催数5回 延べ参加者数127名

(エ) 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」 開催数5回 延べ参加者数104名

(オ) 春、冬のコンサート(5月、2月) 開催数2回 延べ参加者数214名

(カ) 出張イベント「体と心をほぐすエクササイズと生活を便利にする

視覚障害者用具を体験してみよう」..... 開催数2回 延べ参加者数34名

(キ) 出張イベント「小説の中の味を楽しむ会」 開催数2回 延べ参加者数27名

(ク) 小説の中の形を楽しむ会(6月) 参加者数25名

(ケ) 東京・神奈川の「触る」有名建物展(6月) 参加者数46名

(コ) 整理・収納の基本講座(10月) 参加者数46名

(サ) パリの「触る」有名建物展(11月) 参加者数26名

(シ) UD落語inかわさき「触る落語」(12月) 参加者数24名

(ス) センターまつり(12月) 参加者数203名

(セ) ビブリオトーク「あなたの推しの東野圭吾作品を語り合おう」

(12月) 参加者数2名

(ソ) 触察イベント+小説の中の形を楽しむ会(3月) 参加者数23名